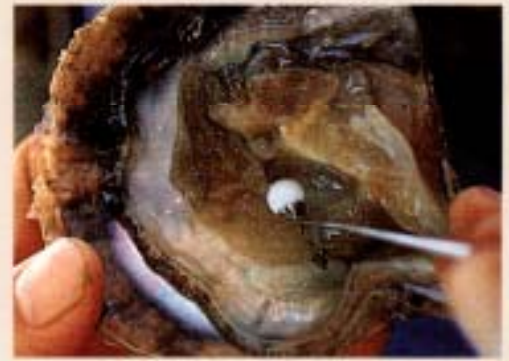




真珠製品いろいろ

真珠の養殖



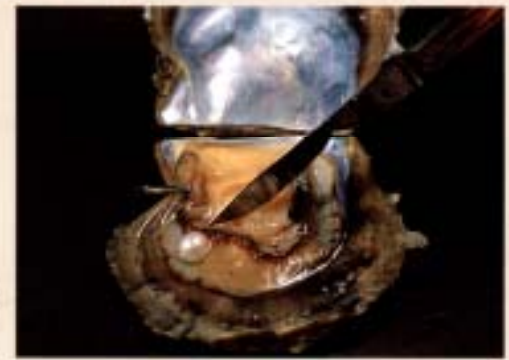
核入れ



漁場へ



貝採降



珠出し

百年の研究テーマ  
アコヤガイと  
真珠

明治三十二(1899)年開場した三重県水産試験場の最初の研究テーマは、「しんじゆ」であった。その後一〇〇年、試験場はアコヤガイの母貝採捕、稚貝採苗、飼育環境、品種改良、病死対策など、

あらゆる分野の研究に取り組み続けてきた。

特に、大戦後の重要な外貨獲得の輸出品として、真珠の果たした役割は大きく、また、多くの漁業者の生活を支えつづけた功績は忘れられない。

最近年は漁場環境の悪化と病気による養殖員の斃死(へいし)が最大の研究テーマである。そんな中で、白色系統貝の作出に成功し、引き続き新品種の完成を目指した研究が注目されている。

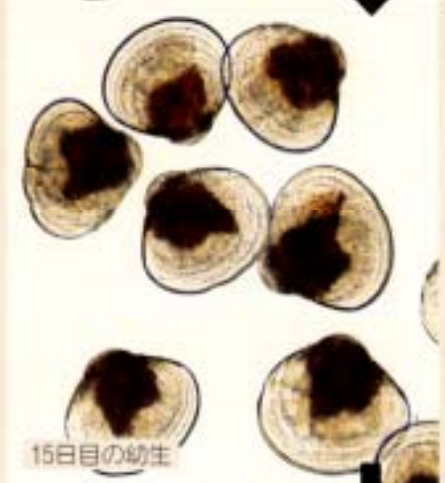
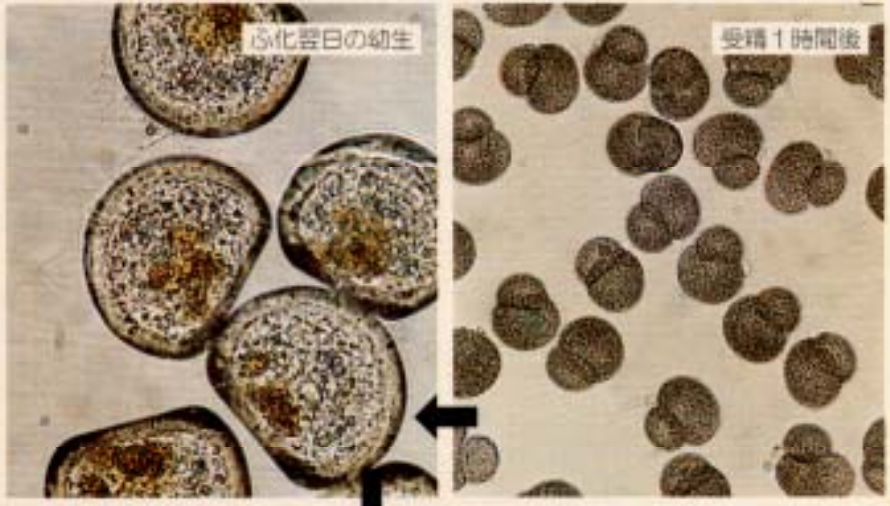
アコヤガイの品種改良

アコヤガイの真珠層の色を選別することによって、真珠の色を特定できるようになった。

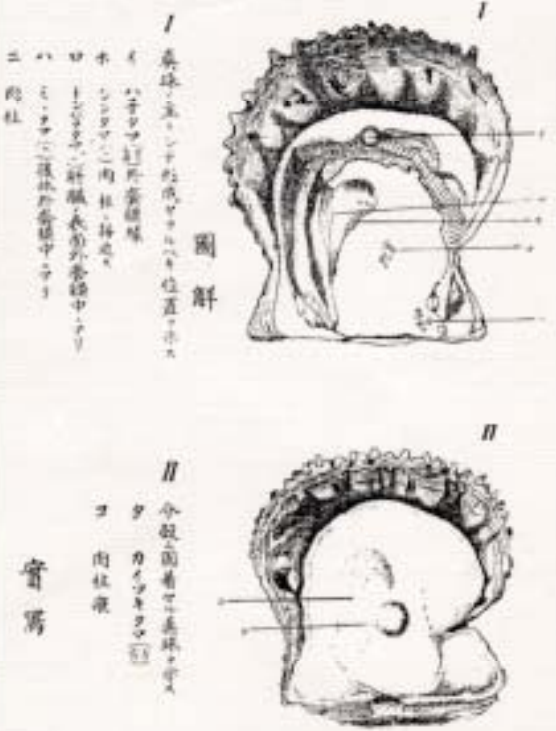


アコヤガイの人工採苗

昭和40年代、稚母貝の不足により、人工採苗の研究が始まった



版二第



100年前にはじまった真珠養殖

明治38年「三重県水産試験場事業成績第一巻」にのっている図版

